令和８年度　大阪府教育センター
研究フォーラム　実施要項

テーマ

大阪の子どもたちのウェルビーイングの向上
～学びのその先へ～

１　日　時　　令和８年 12 月 25 日（金）

午前の分科会	午後の分科会
９:30～12:30（受付９:00～）	14:00～17:00（受付 13:30～）

２　会　場　　大阪府教育センター

（大阪市住吉区苅田４丁目 13 番 23 号　電話 06-6692-1882）

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約 700m
ＪＲ阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約 1,400m
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約 1,700m

３　目　的

調査・研究から得た知見等を、教職員・府民等に発信することで、府内の学校教育活動の発展に資する。

４　申込み

（１）参加するには御所属に応じて、下記の申込み手続きが必要となります。
・全国教員研修プラットフォーム（Plant）の個人アカウントがある方
：全国教員研修プラットフォーム（Plant）により申込み
・上記以外の方
：Google フォームにより申込み
申込みは、次の Web サイトから行ってください。
https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html

（２）午前と午後の分科会等の両方を希望する方は、午前の分科会、午後の分科会等をそれぞれお申込みください。

（３）集合開催とオンデマンド開催（第３・５・７・９分科会）の両方の参加を希望する場合は、それぞれお申し込みください。

（４）申込み期間は、次のとおりです。
集合開催　　：**令和８年 10 月 23 日（金）～12 月 11 日（金）**
オンデマンド開催：**令和８年 10 月 23 日（金）～令和９年１月８日（金）**

（５）各分科会等とも定員に達した場合、抽選になります。申込みをされた方には、申込み締め切り１週間後をめどに、下記の方法により参加の可否をお知らせしますので、御確認ください。
・Plant で申込みをされた方　　：Plant により通知
・Google フォームで申込みをされた方：電子メールにより通知

５　参加に係る配慮事項

・配慮を希望する方は、「受講に係る配慮事項申請書」に必要事項を入力の上、電子メールにて送付をお願いします。教職員の方は、管理職を通じて送付ください。
・「受講に係る配慮事項申請書」は、次よりダウンロードできます。
https://www.osaka-c.ed.jp/category/information/forum/forum_overview.html
ファイル名：Ｒ８_研究フォーラム_第〇分科会配慮事項申請書.docx
送付先アドレス：kyoiku-center-kousui@gbox.pref.osaka.lg.jp

６　分科会等一覧（敬称略）

【集合開催】

第１分科会	定員 120 名	9:30～12:30

「深い学び」の実装に向けて
～次期学習指導要領のポイントから考える～

文部科学省教育課程企画特別部会において、学習指導要領の改訂に向けた議論が大詰めを迎えています。現行の学習指導要領において、子どもたちの「深い学び」の実現が道半ばであることから、次期学習指導要領では、「深い学び」の実装をめざして、内容の検討が進められています。

そこで本分科会では、次期学習指導要領の大きな方向性と大切にするべきポイントを踏まえながら、「『深い学び』の実装に向けて、教職員は何を大切にすべきか」について考えます。

●実践発表等
・小学校国語科　・小学校理科　・中学校社会科　・小学校算数科

●講　　演（オンライン）　「学習指導要領の改訂を踏まえて、子どもたちの『深い学び』の実装のために、教職員が大切にすべきこと」
貞廣 斎子（千葉大学 副学長 教育学研究院教授／文部科学省 教育課程企画特別部会 主査）

第2分科会	定員 200 名	9:30～12:30

子どものSOSを受けとめる体制づくり
～不登校児童生徒支援の観点から～

不登校は取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものです。不登校に至る要因は多岐にわたると考えられ、その予防・支援にあたっては、児童生徒が発するSOSを教職員が多面的に把握する必要があります。そのためには、教職員個人の気付きだけでなく、学校全体で気付き、支える仕組みが必要です。

本分科会では児童生徒のSOSの受けとめ方について、学校・教育支援センターの実践をお伝えするとともに、専門家・参加される方々の意見も交えながら、子どものSOSを受けとめる体制づくりについて考えていきます。

●実 践 発 表　「子どものＳＯＳを受けとめる～不登校児童生徒支援の現場から～」
市町村教育支援センター、小中学校より

●講演・ワーク等　「子どものＳＯＳの受けとめ、適切な支援につなげる」
新井　肇（関西外国語大学　教授／「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」副座長）

第3分科会	定員 70 名	9:30～12:30

組織でデザインする「深い学び」
～私たちは生徒に何を残したいのか～

結局「深い学び」って何だろう？今の授業で生徒の「深い学び」は実現できているのだろうか？と感じている皆さん。

本分科会では、生徒に知識をただ教え込むのではなく、「私たちは生徒に何を残したいのか」という問いを出発点に、生徒に残したい二つの大切なものに着目しながら、「深い学び」とは何かについて改めて考えていきます。石井教授の講演とワークショップを通して、高等学校における個人の実践を越えた組織的な授業づくりについて一緒に考え、学校全体で「深い学び」を実現するためのヒントを持ち帰りませんか。

●講　　演　「組織でデザインする『深い学び』～私たちは生徒に何を残したいのか～」
石井　英真（京都大学大学院　教授）

●ワークショップ　「組織でめざす『深い学び』～私たちが生徒に残したいもの・残せるもの～」

第4分科会	定員 200 名	9:30～12:30

“なぜ自立活動なのか”を考える
～実践と理論から探る自立活動の本質と未来～

多様な教育的ニーズへの対応が求められる今、個別の目標に応じた支援を行う自立活動の重要性が高まっています。

本分科会では、大阪大谷大学　小田　浩伸　教授による御講演と府立支援学校による自立活動の取組みの実践発表を通して、実態把握から目標設定、指導・支援、評価に至るまでのプロセスを整理し、実践と理論の両面から自立活動の意義や役割について改めて考えていきます。

●報　　告　「校種を越えてつなぐ 自立活動実践調査・研究事業
-市町村立学校と府立支援学校の協働による指導力向上モデルの構築-」
大阪府教育センター　指導主事

●講　　演　小田　浩伸（大阪大谷大学　教授）

●実 践 発 表　府立東淀川支援学校

第5分科会	定員 60 名	9:30～12:30

不登校支援がひらく可能性
～つながりと成長に向けた支援～

不登校は多様な要因・背景によって生じるものであり、誰にでも起こり得るものです。そのため、不登校になってからの支援だけでなく、子どもの声を丁寧に聴き、一人ひとりが安心して学び、成長できる学校づくりを進めるなど、未然防止の取組みも重要です。また、子どもの状況やニーズに応じて、多様な学びの場や選択肢を視野に入れながら、社会とのつながりを切ることなく、社会的自立に向けた支援を行うことが求められています。

本分科会では、多様な学びと社会参加につながる支援の在り方について共有し、子どもたちが未来に希望を持ち、自らの可能性を広げていくために教育が果たす役割について、皆さんとともに考えます。

●報　　告　LACO（大阪府学びのアクセスセンター）

●実 践 発 表　大阪府教育センター附属高等学校窓明分校

●講　　演　「不登校生徒支援がひらく可能性～つながりと成長を支える教育のかたち～」
春日井　敏之（立命館大学　名誉教授）

第6分科会	定員 250 名	14:00～17:00

子どもたちの学力向上に挑む学校の取組み
～学習の基盤となる資質・能力の育成をめざして～

大阪府内すべての子どもたちの学力向上を目的としたスクール・エンパワーメント推進事業の実施校より、学力向上や学習の基盤となる資質・能力の育成をめざした取組みについて実践発表していただきます。

また、後半には、青山学院大学　益川　弘如　教授より、「子どもたちの資質・能力を育むための授業デザインと学習評価」と題して、御講演いただきます。

●実 践 発 表　「確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校」池田市立北豊島中学校
「言語能力をはぐくむモデル校」　吹田市立南山田小学校
「情報活用能力をはぐくむモデル校」　河内長野市立天見小学校

●講　　演　「子どもたちの資質・能力を育むための授業デザインと学習評価」
益川　弘如（青山学院大学　教授）

第7分科会	定員 60 名	14:00～17:00

生成ＡＩ活用による業務改善と新たな可能性

生成ＡＩは社会の多様な領域に急速に浸透しており、今後、学校現場においても業務改善や授業づくりへの活用が進むことが予想されています。本分科会は、日頃組織の中で生成ＡＩの活用を推進されている方々を対象とし、参加者の皆様には、今年度、教育センターで作成を進めてきた「生成ＡＩ活用事例集（試行版）」を活用する演習や協議を通して、生成ＡＩの適切な活用を組織の中でどのように推進していくかを考えていただきます。

●報　　告　教育センター作成の「生成ＡＩ活用事例集（試行版）」について

●講義・演習　「生成ＡＩ活用の『コツ』と実践」
小池　裕也（認定ＮＰＯ法人ＣＬＡＣＫ）

●協　　議　「生成ＡＩの適切な活用を組織の中で推進するために」

第8分科会	定員 80 名	14:00～17:00

教員の「成長」に影響を与える「役割」「環境」

「教育は人なり」という言葉が示すように、教育の成否は最終的には教員の力にかかっており、教員の育成は重要な課題です。

本分科会では、教員の「成長」に「役割」「環境」がどのように影響し合うかについて、先生方に実施したアンケートの分析結果の報告や講義を通して、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

●報　　告　アンケートの分析結果より

●講　　義　「教員の『成長』に影響を与える『役割』『環境』」
脇本　健弘（横浜国立大学　准教授）

●交　　流　「教員の『成長』に影響を与える『役割』『環境』」に関わって

第9分科会	定員 140 名	14:00～17:00

子どもの権利の観点をふまえた人権教育の実践

子どもを権利の主体として捉え、一人ひとりの尊厳が尊重される学校づくりや授業づくりについて考えるとともに、人権教育を日常の教育活動の中でどのように実践し、子どもの主体性や参加を支えていくのかについて学びます。また、今年度、当室が作成する研修パッケージの試作版を体験し、改善に向けたアイデアを共有する時間もとります。

主な対象は、管理職、人権担当者、指導主事等を想定しておりますが、人権教育に関心のある方であれば、どなたでも是非御参加ください。これからの人権教育の在り方を、ともに考えていきましょう。

●報　　告　調査・研究の中間報告
大阪府教育センター人権教育研究室　指導主事等

●講　　演　「今、子どもの権利から人権教育を考える
～子どもを権利の主体として育む学校づくり～」
荒木　寿友（立命館大学大学院　教職研究科　教授）

●協　　議　「子どもの権利を基盤とした学校づくりをどう進めるか」

【オンデマンド開催】集合開催の様子を一部、オンデマンドにて公開します。

第3分科会【オンデマンド】	視聴期間:1月 12 日～1月 26 日

組織でデザインする「深い学び」
～私たちは生徒に何を残したいのか～

※オンデマンドでは、会の一部のみ視聴することができます。
※オンデマンドごとに、申込が必要です。

結局「深い学び」って何だろう？今の授業で生徒の「深い学び」は実現できているのだろうか？と感じている皆さん。

本分科会では、生徒に知識をただ教え込むのではなく、「私たちは生徒に何を残したいのか」という問いを出発点に、生徒に残したい二つの大切なものに着目しながら、「深い学び」とは何かについて改めて考えていきます。石井教授の講演とワークショップを通して、高等学校における個人の実践を越えた組織的な授業づくりについて一緒に考え、学校全体で「深い学び」を実現するためのヒントを持ち帰りませんか。

●講　　演　「組織でデザインする『深い学び』～私たちは生徒に何を残したいのか～」
石井　英真（京都大学大学院　教授）

●ワークショップ　「組織でめざす『深い学び』～私たちが生徒に残したいもの・残せるもの～」

第5分科会【オンデマンド】	視聴期間:1月 12 日～1月 26 日

不登校支援がひらく可能性
～つながりと成長に向けた支援～

※オンデマンドでは、会の一部のみ視聴することができます。
※オンデマンドごとに、申込が必要です。

不登校は多様な要因・背景によって生じるものであり、誰にでも起こり得るものです。そのため、不登校になってからの支援だけでなく、子どもの声を丁寧に聴き、一人ひとりが安心して学び、成長できる学校づくりを進めるなど、未然防止の取組みも重要です。また、子どもの状況やニーズに応じて、多様な学びの場や選択肢を視野に入れながら、社会とのつながりを切ることなく、社会的自立に向けた支援を行うことが求められています。

本分科会では、多様な学びと社会参加につながる支援の在り方について共有し、子どもたちが未来に希望を持ち、自らの可能性を広げていくために教育が果たす役割について、皆さんとともに考えます。

●報　　告　LACO（大阪府学びのアクセスセンター）

●実 践 発 表　大阪府教育センター附属高等学校窓明分校

●講　　演　「不登校生徒支援がひらく可能性～つながりと成長を支える教育のかたち～」
春日井　敏之（立命館大学　名誉教授）

第7分科会【オンデマンド】	視聴期間:1月 12 日～1月 26 日

生成ＡＩ活用による業務改善と新たな可能性

※オンデマンドでは、会の一部のみ視聴することができます。
※オンデマンドごとに、申込が必要です。

生成ＡＩは社会の多様な領域に急速に浸透しており、今後、学校現場においても業務改善や授業づくりへの活用が進むことが予想されています。本分科会は、日頃組織の中で生成ＡＩの活用を推進されている方々を対象とし、参加者の皆様には、今年度、教育センターで作成を進めてきた「生成ＡＩ活用事例集（試行版）」を活用する演習を通して、生成ＡＩの適切な活用を組織の中でどのように推進していくかを考えていただきます

●報　　告　教育センター作成の「生成ＡＩ活用事例集（試行版）」について

●講義・演習　「生成ＡＩ活用の「コツ」と実践」
小池　裕也（認定ＮＰＯ法人ＣＬＡＣＫ）

第9分科会【オンデマンド】	視聴期間:1月 12 日～1月 26 日

子どもの権利の観点をふまえた人権教育の実践

※オンデマンドでは、会の一部のみ視聴することができます。
※オンデマンドごとに、申込が必要です。

子どもを権利の主体として捉え、一人ひとりの尊厳が尊重される学校づくりや授業づくりについて考えるとともに、人権教育を日常の教育活動の中でどのように実践し、子どもの主体性や参加を支えていくのかについて学びます。

主な対象は、管理職、人権担当者、指導主事等を想定しておりますが、人権教育に関心のある方であれば、どなたでも是非御参加ください。これからの人権教育の在り方を、ともに考えていきましょう。

●講　　演　「今、子どもの権利から人権教育を考える
～子どもを権利の主体として育む学校づくり～」
荒木　寿友（立命館大学大学院　教職研究科　教授）